



長野県大町市大町3887番地
大町市土地改良区
水土里ネットおおまち
地域用水対策協議会
TEL 0261(22)5542
FAX 0261(23)0766
www.midorinet-omachi.jp

栄えある農林水産大臣賞受賞

全国土地改良事業団体連合会が主催する、「第六一回全国土地改良功労者等表彰」において、当協議会の母体である大町市土地改良区は、このほど農林水産大臣賞を受賞しました。

選考に当たっては、越荒沢堰を地域資源として活用していくため、同堰が有している様々な役割について、地域の理解を深めることを目的として、土地改良区、長野県、大町市、地元の水関係者が集まり、平成10年に設立された「越荒沢堰水系地域用水対策協議会」(当協議会の前身)が行ってきた様々な活動と、さらに平成19年度から活動範囲を一水系にとどまらず、平・大町・社地域を全域とした当協議会が行っている農業用水を地域全体で守っているこれまでの取り組みが大いに評価されました。

また、次世代を担う子供たちへの啓発活動として、市内小学校の米作り体験を通して昔の農作業や農業用水の歴史をたどり、先人の苦労のおかげで今の自分たちの生活があることや農業用水の大切さを伝えていく取り組みは、子どもたちの感性や知識を育む環境教

育活動の場として、今後も継続的な取り組みを期待されています。

この受賞を励みに、これからもさらに地域全体で地域用水機能の維持・増進に取り組みでまいります。



事務局に届いた表彰状

水不足が継続中です

近年は、気候変化に伴い記録的に降雪量が少なく、春から秋の農繁期には、地域農業に大きな影響を及ぼしています。

大町市の水路系統は主に、鹿島川、籠川、農具川、稲尾沢、居谷里沢の5つの系統で形成されておりますが、その他の小規模な沢水などが流入することにより、十分な水が確保されていません。深い山から流れ込む水は、すぐに雪不足が影響することはないと思いま

すが、比較的浅い山の沢水が減ることにより水の全体量は不足してしまっています。また、降雨量や、雨の降り方もかさんがい用水に大きな影響をあたえます。じわりじわり降る雨は、山というフィルターを通過し、徐々に浸透し、継続的な清流になります。近年みられるゲリラ豪雨のような大雨は、山の表面を削りながら一気に大量の濁水を吐き出しますので、かさんがい用水には良い影響を与えません。

今年、6月から居谷里堰の水が不足し、日によっては、鹿島川系や農具川系の各取水路の水が減っており、特に社東山麓の耕作者は、掛水の番水制など負担を強いられています。十分な水を確保するために、特に水量が少ない日は松崎ポンプを昼夜運転に切り替えるなど対策をとっています。

が、それでも抜本的に解決とはいきません。今後の気象状況によっては、水不足という状況が継続する可能性があります。また、水の豊かな大町市といえども、貴重な水資源という認識をもつていただき、営農に動しんでいただきたいと思います。また、我々職員一同もそういう認識の元、組合員皆様のご負担、ご苦労を軽減できる様な水利運営を行ってまいりますので、ご理解ください。

農業施設への不法投棄

土地改良区職員はかさんがい期非かさんがい期を問わず管内水路を巡回し

ます。今年の春先も農業施設でゴミの不法投棄がよく見受けられ、大町市職員にお手伝いいただきながら、施設のゴミ除去作業を行いました。不法投棄物として特に多いのは、家庭ごみですが、中には電化製品や医療



久保2号調整池のゴミ上げの状況

関係の容器など悪質なものもありました。これらは、水路を流れたまったり物、又は、施設に直接捨てられた物です。ゴミにより農業用水や水路が汚れていても大町市の飲料水には直接関係はありませんが、汚れた水で作る米をはじめとした農作物を想像すると何ともいいたまれない気持ちになります。また、味そのものに影響がないとしても、それらを食べる消費者がゴミで汚れた水路や水を見て、美味しい農作物を想像できるでしょうか。源流の水がきれいでも、下流でゴミを捨ててよごしてしまえば、水質は悪化し、生活環境も悪化します。後世に清らかな水や、自然豊かな地域を引き継ぐためにも、一人一人の心がけが試されますし、不法投棄は絶対に許すことはできません。これからも、職員一同肝に銘じて努力いたしますが、農業用施設で不法投棄物などをみかけた際は、大町市土地改良区までご連絡ください。

ため池監視システム 1号基設置完了

平成30年7月豪雨災害では、各地でため池の決壊が相次ぎ、甚大な被害をもたらしました。また地震列島日本において、ため池の耐震性が重要視されるようになりました。昨年度、「ため池管理及び保全に関する法律」が制定され、ため池をとりまく環境はより厳しくなり、ため池の届出が義務化され、防災重点ため池に関しては、緊急連絡網の整備などが進められました。

大町市土地改良区管内には、大小14のため池があり、そのうちの5つ（大沢寺・居合里1、2、3号・久保2号）が、国の定めるところの防災重点ため池に指定されており、防災重点ため池というのは、決壊した場合の浸水区域に公共施設、家屋などが存在し、人的被害を与えるおそれのあるため池をさすもので、一定の大きさの地震時や、集中豪雨時などには、ため池管理者や市職員が監視を行い、被害がでる前に避難を呼びかける等の対策をとります。しかし、余震や豪雨のなか、現地のため池の点検や監視を行うことは、大変危険なことであり、元より点検者本人が被災してしまうケースも想定されます。こうした現状を踏まえ、ため池管理者等が、安全かつ速やかにため池の状況を把握し、情報連絡に繋げるために、遠方のため池を監視するシステムが導入されました。大町市管内では、5月、大沢寺ため池に初の監視シ

ステムが設置されました。今後は今年度中にすべての防災重点ため池に設置予定となつて



設置された監視システム

います。現在、8月からのシステム本運用に向けて準備をしている段階ですが、これを機に、ため池の安全性を見直し、大町市と連携し防災にも一役担う様努力してまいります。

大町西小米作り体験

昨年に引き続き大町西小学校から、5年生総合学習として授業で行う「米づくり体験」への指導協力の依頼があり、現在取り組んでいます。

4月16日「種まき作業」

米作り体験第1回目となる、餅米（おらがもち）の種まき作業を行いました。新型コロナウイルスの影響で中々友達と会えない中の学習でもあり、児童たちは熱心に説明を聞いていました。班ごとに分かれた児童たちは、ライスファーム野口さんから提供していただいた種を使って、種まき作業を始め、穏やかな陽気の中、しっかりと丁寧に、仲間と協力して作業を終えました。その後、約4週間にわたり育苗管理を行い、苗は順調に成長していきました。

5月12日「代かき作業」

例年は、児童たちが裸足になり、泥田の中を駆け回る代かき作業を行って

いますが、新型コロナウイルス感染症対策による休校で、代掻き体験は中止になりました。急遽、米作り体験にご尽力いただいている平林さんにトラクターでの代かき作業をお願いしました。

5月14日「田植え作業」

時節柄、週に2度ある登校日の午前中、田植え作業が行われました。市の建設課から応援いただき、等間隔に目印を付けたロープを使用し田植えを行いました。最初は児童たちもなかなか



今年の田植えの様子

思った本数をつかみ取れなかったり、浅植えになったりと、失敗してしまうところもあるようでした。田植え中盤にはコツを掴み、予定通りの時間で作業を終えることができた。

した。感染症対策による不安な日々を過ごしている児童達でしたが、元気にまたしっかりと田植え作業をしている姿が印象的でした。

米作り体験もまだ中盤ですが、秋の実に期待しつつ、子供達が元気いっぱい田んぼを駆けめぐり、稲刈りや脱穀ができる様願うばかりです。

直営の維持作業

本年度も大町市建設課の職員にお手伝いいただきながら、横堰、高巾堰、町川などで維持作業を実施しました。実施箇所は、農具川（三日町）の堤外水路で取水する施設ですが、取水路に土砂が溜まると十分な取水ができません。土地改良区では、毎年農具川取水施設の土砂上げや、水の流れを悪くする植物の根の除去、草刈りなどの維持作業を行っています。少人数での人力作業ですので、なかなかすべての水路の維持作業を毎年行うのは困難ですが、とりわけ緊急性のある水路を優先に実施しています。

近年は、農家数の減少や、担い手不足の傾向が進行し、農家組合などが行う維持作業が難しくなっております。土地改良区としても各地区多面的活動組織や、関係自治会との連携を高め、維持活動を行い、安定した取水・配水ができる様、努力していきたいと思っております。



直営維持作業(横堰)

野口の冬を支えた冬水堰と久保堰

—その歴史的役割を終えるにあたって—

野口橋から温泉郷へ向かって鹿島川の堤防沿いを走っていると、鹿島大橋下流に設けられた水門が目に入りやす。通常では水を取り入れることが困難な場所に、なぜ水門があるの不思議ですが、この水門は、かつて野口集落の冬の生活を支えてきた「冬水堰」の取り入れです。今回は、この冬水堰と下流の「久保堰」について考えてみましょう。

野口集落は、本村や中村など鹿島川左岸の中心集落と右岸の太田・北条屋敷から構成され、左岸一帯の幹線水路は野口堰です。爺ヶ岳スキー場対岸の猫鼻地籍で鹿島川から取り入れられ、鹿島川に並行して一直線に流下し、集落の北方で東堰・西堰と払い堰に分れ、野口集落を灌漑した後、再び合流して高根の中堰（大蔵宮堰）となり、農具川へと流入しています。元来は、鹿島川から自然流出していた支流を室町時代頃、野口の開発のために用水堰として整備したものとみられます。

野口堰が流下する中花見や花見地籍は、現在は肥沃な水田地帯ですが、戦後の開拓事業が行われるまでは広大な原野や山林でした。落ち葉や障害物も多く、冬になると流路が凍結し、集落まで水が到達することが困難でした。このため冬期間の飲料水は、冬水堰と

久保堰に頼っていました。冬水堰は野口堰につながり、久保堰は払い堰に流入することで野口集落の全域に飲料水が行き渡るようになっていました。野口堰が開さくされる以前、当初の野口集落は、これら一つの用水堰から始まったことも想定され、生活に欠かせない飲料水を確保するために、毎年秋には流路の点検を行うなど古くから大切にされてきました。

冬水堰の水門は鹿島川左岸にありますが、冬水堰も久保堰も実際の水源は、鹿島川を渡った対岸の北条屋敷東側の湧水地帯です。現在は鹿島川を横断する三本のサイフォンが設けられていますが、元来は聖牛や蛇籠を組んで鹿島川を流路で横断していたようです。戦後の開拓事業に伴い、水量を確保するために昭和24（一九四九）年、上流に1号サイフォンが整備されました。



現在の冬水堰サイフォンの姿

昭和34年には、黒部ダム建設に伴う工事用車両の洗車場を整備するために「井出沢」の湧水を導水して水量を増

やし集水池を設け、鹿島川を横断する2号サイフォンと久保堰のサイフォンが整備されました。現在残る水門は、この時、鹿島川から緊急時などの補給水を取水するために2号サイフォンの出口に設けられたものです。

永い歴史をもつ両用水堰ですが、高瀬川上流地域総合開発によって昭和電工導水路から必要な農業用水が供給されるようになり、昭和30年代初めには野口集落の上水道も完備して、近年はまったく取水する必要がなくなりました。このため、本年度から水門など河川内施設を取り除き、歴史的使命を終えることになりました。

両用水堰が、野口など下流地域のために果たしてきた役割に改めて感謝したいと思います。

（文責 荒井今朝二）

ふれあいイベント

「土・人・水」

開催中止のお知らせ

イベントを通して地域用水を守ることや、ふれあいの大切さを伝える為に、毎年、地域用水対策協議会と大町市土地改良区が合同で開催してきたふれあいイベント「土・人・水」は、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止の為に本年度の開催を中止することに決定しました。

昨年度は、開催20回目の節目で、イベント来場者数も増加し、盛り上がり



昨年のイベントの様子

をみせていただけに、残念です。本年度は、親水広場の荒廃を防ぐため、土地改良区理事・大町市職員・土地改良区職員で親水公園の景観整備作業を実施しますが、次回開催にむけて、イベントをより一層よいものに、そしてたくさんの方に来場していただける様に準備してまいりますので、ご理解ください。

また、今秋、地域用水対策協議会、野口地域保全会、高瀬川上流水利運営委員会が合同で久保ため池の整備を企画しております。地域の農業施設を皆で整備し、用水を守り、後世に残すための一歩として企画しているイベントです。作業メインの企画ですが、終了後はなにか住民どうしがふれあえる様なことができればと考えております。詳細は改めてお知らせしますので、興味のある方は奮ってご参加ください。

水土里ネットおおまち地域用水対策協議会主催

第17回「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展

今回で第17回目を迎える子供絵画展ですが、コロナウイルス感染防止対策であわただしい中、大町西小5年生が作品を出展してくれました。どの作品も迫力があって、収穫の喜びがしっかり伝わる素晴らしい仕上がりでした。協議会で厳正な審査が行われ、5点優秀作品が決定しました。

会長賞



「いっぱいかったいねかり」
北澤 由楽

理事長賞



「意外とかんたんないねかり」
川上 恵唯

努力賞



「がんばったいねかり」
高橋 このは



「僕のいねかり」
平林 拓斗



「初めてのいねかり」
岩城 楓南

応募作品は、大町市役所2階東連絡通路に展示しました。6月24日に大町市役所西会議室にて表彰式が行われ、当協議会会長である牛越大町市長より表彰状と記念品が授与されました。



<http://www.midorinet-omachi.jp>

ホームページもあります。
水土里ネットおおまち で検索